

J.S.Bach Sinfonien

バッハ シンフォニア

第 13 番 イ短調 BWV799

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、インヴェンションとシンフォニアについて	3
1. バッハ「シンフォニア」第13番 a moll BWV 799 楽譜	4
2. 主題と結句と対旋律と装飾音について	6
3. バッハ「シンフォニア」第13番 a moll BWV 799 第I展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「シンフォニア」第13番 a moll BWV 799 第II展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. バッハ「シンフォニア」第13番 a moll BWV 799 第III展開部の楽曲分析と演奏法について	12
6. 楽譜にアナリゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	15

■はじめに

2003年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012年にPDF書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂き、パソコンの前で頭が下がる思いでおります。

2019年3月～2020年5月、バッハ インヴェンション全15曲の全面作り直しを致しましたが、シンフォニアも同様に全面作り直しをする事と致しました。作る度に新たな発見などあり、このように音楽に向き合っている今に感謝しております。(2020年6月)

■インヴェンションとシンフォニアについて

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) のクラヴィーア曲は、その大部分がケーテンの宮廷楽長時代 (1717~1723) に書かれました。インヴェンションとシンフォニア BWV 772-801 (*Inventionen und Sinfonien* BWV 772-801) も、「フランス組曲」「イギリス組曲」「平均律クラヴィーア曲集第1巻」などと共にケーテン時代に書かれた作品の一つとなります。クラヴィーア曲の多くは、教育目的として書かれました。バッハには、自身が「いずれも生まれながらの音楽家」と誇らしく語る息子たちがおり、とりわけ豊かな才能に恵まれていた長男ヴィルヘルム・フリーデマンの教材として「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集 (*Klavierbüchlein für Wilhelm Friedemann Bach*)」(1720年頃)が編まれました。この曲集の中に「インヴェンション」の最初の形が見出される事となります。ここでは、2声の曲が「プレアンプルム」(*Praeambulum*)、3声の曲が「ファンタジア」(*Fantasia*)と題されていました。その後、バッハはさらに改訂し、1723年に配列も変え、題名も2声曲を「インヴェンツィオ」、3声曲を「シンフォニア」と改めました。

自筆浄書譜には次のような表題があります。

「クラヴィーアの愛好家、とりわけ学習希望者が、まず2声部をきれいに弾き分けるだけでなく、さらに上達したならば、オブリガートの3声部を正しくそして上手に処理し、それと同時に、すぐれた楽想を得るだけでなく、それらを巧みに展開すること。そしてとりわけ、カンタービレの奏法を身につけ、それとともに作曲の予備知識を得るための、はっきりした方法を示す正しい手引き。」

シンフォニアもインヴェンション同様に、曲集に採用されています 15 調は、ハ長調 - ハ短調 - ニ長調 - ニ短調 - 変ホ長調 - ホ長調 - ホ短調 - ヘ長調 - ヘ短調 - ト長調 - ト短調 - イ長調 - イ短調 - 変ロ長調 - ロ短調 と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット4つまでの調です。)

Sinfonia 13

Johann Sebastian Bach
BWV 799

The musical score for Sinfonia 13, BWV 799 by Johann Sebastian Bach, is presented in a standard two-staff format (treble and bass clefs). The piece is in G major and 3/4 time. The notation includes various musical symbols such as slurs, ties, and fingerings (numbers 1-5) to guide the performer. The score is divided into five systems, each containing two staves. The first system (measures 1-6) begins with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The second system (measures 7-12) continues the melodic and harmonic development. The third system (measures 13-18) features more complex rhythmic patterns and slurs. The fourth system (measures 19-24) includes a trill in measure 17. The fifth system (measures 25-30) concludes the piece with a final cadence. The bass clef staff often provides a steady harmonic accompaniment, while the treble clef staff carries the primary melodic line.

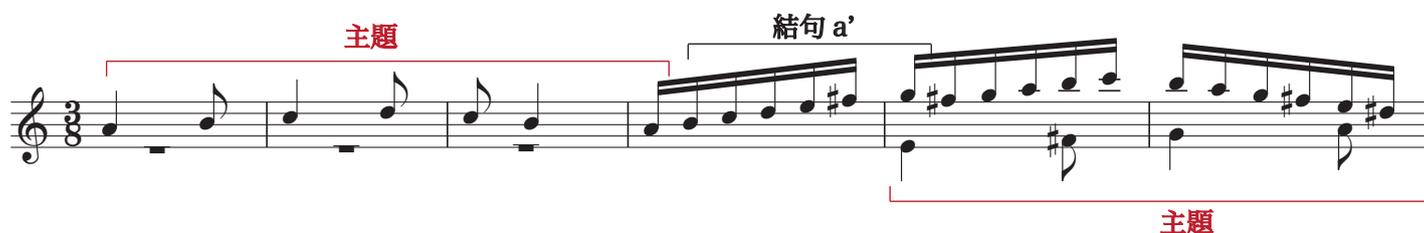
2. 主題と結句と対旋律と装飾音について

第11番と同様に舞曲的な性格を持ち、片や第7番と並ぶ密度の高い作品です。主題の二重化や表情豊かな対旋律の導入など幅広い表現はシンフォニア全15曲の中で屈指の作品と言えます。

主題です。



主題と主題の間を結ぶ1小節の結句 a' が設置されています。



主題に対して、曲の冒頭にゲネラルバスが設置されています。



2種類の対旋律が用いられています。

対旋律 I



対旋律 II

